新板
繪入

長生伏本隱

特別
13
3516
1

特
門ベ13
3516
巻1

此所と清輝卿上ひ
一京都八文字屋方ニ住年分所蔵ニ
候ヘ共ハ文字屋方ニ慈求板住方ニ相
違無御座候ヘ共又ハ先例と
業長分年ニ新版後事出申候ニ
付求清輝卿ニ相違無御座
内和四年
正月
作屋
大義

昭和二十九年
七月九日
購求

序

京都帝国大学

崇徳皇帝不老長寿の業と
水ひ二人の浮氣者と遣
きまつりたまひ
故事是八都朝
文治乃古事と肥前乃
伝説ニ手世ニ絶づ代ニ

手と拾ひ石橋山のこりこゝふ
事を色服のあさりふ蔓とるゞ
こゝ〳〵書けゞをとゞに長生伏
本隠〳〵号しまれけゞ先れ
蔵ひのそびみをやゝ云こ

中

書物

作者　其磧

自笑

長生伏本隠　一之巻

目録

第一　年寄男い欲味方と深ゝ三枚目城
お員てゝ蓮のはふ扇に要石橋山の合戦
立得とゆメて俵方ふ門子安房国乃富士
源平立別てゝ結のわ素歩あらいの義豊ゝ実

才二　お袋のかたぐ和歌で嫁に成る色直

歌へ縁をとり結んざ玉房姫乃祝言

非の仰せを受けて受る縁毎に貞節

後えと嫁ゆふとるが小判の金まれす節

貧三　ものといつても老の耳にさうの氣の橋無く

無氣ぶく者い其身乃年と白髮の娘

ものとうれ者い三味のうらうさ新でうれ嫁

如中高和かきをれよ引く吉乃色

一　奪留男ハ歌味方と深命と衣笠の城

漢の高祖い栄陽の関をおとしかけハ。僅ま二十八騎に成りか

どもつゆま項羽が百万騎よ付繰て。天下をたもちかの我朝の

流人右兵衛佐源頼朝公ハ。石橋山の合戦ま付負ましかる後

七騎まで伏木の中に隠れ。ふと。梶原平三景時ぐ見付

まる。軍敗じて。小余河級。土肥の杉平。を茂。畠山のあひ

まり。土肥の杉名殿が涙より和よりて。安房国へまらうふ。

実ま源家傳代の勇士。三浦大助義ゆい。父子ま仕度の用

教書と以裁して。都ぢのもらの家れるるどと恨て。子孫一族を

もよおし。ま。山味方に参らんと用意ま。石橋山の合戦に

源氏打負。伝度い紀方ま忘れず。家ゆ力と蒙しまぐら。

文禁令を畏伏して太閤金子のかくなる者をもいづくもいつまず。三浦の浪人和田の小太郎と名をかへ孫子といさめて子くれ行方の中幼来とうるひまうけ者の山男にて立てばとせとて家をすかるる所よ。京六波羅の沙汰として三浦一家を近江やうと尋ねの者共行方の大和と家りをそ衣笠の城へ押よするは頃をあれい三浦一家の人々と共に世の親と城郭。作法とあるに出入をもいづくもれい面こは城にてもいづくもれ。つくべ二方と打ぬきて落行作法のはれあとうるをんと胸とさいめて鼻心が押寄るとなやとなるかのぐと雪ようちじめうきに和泉こめて大名。人数をそろへて来るへかう寄ぬ出ぬ先陣の軍兵と見れい甲冑と常世若い人々。後金子の十郎家光に家ぬ家臣は沢六郎清十郎打見ぐ若い者中ゆしく作ら新き中家おとつせ左ぐりふあるのまを家ぬ出ぬ大なるのはそるまうあり。東あの結といそ三浦の別面義澄人金子の

十郎重後ゆ義盲ありて。まうあるうとらひ入されべ武そと義一あくさと立て押よるのくとしのいさいるて。お目の往義に来れる同郎のそ作法。三浦よ重後とい一宮後の軍和子のろよ来れる者うん。と。宮宮ろ奥へ結ぬ。三浦義澄は帰ぬ和田ゆ義盲作家のうちしこうはて立ぬ。ゆ人々和田と所ぬ金子のうゆけるいはは人作法いとする中義ぬ。三浦と秩父い。ゆ結ある一神の家ぬそはようて。宮ぬ三浦宮結。掛者と仲人にて。若宮の長女ゆ房姫と。義盲が姫にゆ結。長男ゆ宮ゆ妻合ゆ。ゆ重ゆ重ゆ重ゆ引わるかるて。別ゆ女ゆ宮ゆ重ゆ重ゆ結ゆの従家と結ぬ入いるゆ。ゆでこゆ作法ゆ。ゆ。ゆ姫れともれむすびゆくゆ家ともいさやゆ重ゆ。ゆ作ゆ。ゆ義盲結とゆされ。ゆ。ゆ重ゆ結はいゆ。ゆ。ゆ義盲作ゆ結ゆ義盲の性方ゆ屋ゆあゆ入ゆて。義盲ゆ義と家

三南の城主

六位右衛門尉の伝右衛門と申す人の男子に伝次郎
男子の歌味方と申して安堵する人めづらしかりける。会我い会我。彼のろい
歌味方におわかれて、契約をとり結ぶ。妻
女と歌の城内へ打ちくべきいろいろ仲人の侍ふ。今日ひろひ侍
らんとて行つれしの物を分捕取者姫より仲人の義。あらぐ喜女を信れ者
でとぞ仕とはかりて。番所へ参りて。守衛にいろ身方とる侍紀三郎いひ
のぐれば。家臣にて。守衛にいろ身方とる侍紀三郎いひ
名付の女ゆへよ。歌味方と申しても。親と親の契約とぞ。家を出されぬ
おい姫と迎よ。ことさらん。祝ぬくゆゑどころ。と家出てひろひ。
奥へ入て姫と出仕をヤメセ。ぬく男子の方へ参りゆゑに。近付
そへ出ずとヤ法せとつの付れば。家出ぬ。怪ぐ。えいの
ちらちらひとない。ゆゑ。純味方房と申者と出ぬ。あ一たび。そへ

和戻ぞ。ろろと法と切。新て行のもろ。いさぎよう一義ともとげらるべき下ニ
今仕法へ下せ来る歌の方へ迎に来れば。そ房とそろれて行ゆゑん歌よ。
因とむすび家法が四屋。会我よ。ろて男性と待べき未孫の仕ぞ。脇世
あと。関人別の子。成生のロのそろ。ろろ法で。三浦の家の服装。ろとろすい
叶まで。迎て。ろ仕切てつろいされと。面ぞ入てひろれば家法ぬ。
それ男士い物と言ぜざると家とそ。いろ。そ房と兵ぐ。そ。よびて。ぬい
いつけ。出て。い新よ。ろぐ。ひ。ぬ。ぬ。ぬ

帝のおぼしめしにかなひてとて、ひろはとおさへて、迎させたまひし、其のことの旨
乃ち、おのおのの分としていはれざる古歌といふ、女房を指て、遠の方
とはせまさせたまひ、男く、海でうに、ヤセと、一説には、人れば、義貴といふ、
ヤセと云て、奥へゆけば、それ、伝奈は、遠の人をあやまつて、後伝の中、海を
渡せよと、仰らるるぞ、もそ、迎ける、義貴ぞ、もそて、義流の、国を、ゆるぎ、
ゆとはなるとうぞと、掬ふさぐ、ぞ、おづく、ぞ、あまり、姫の、女房よ、いざと、遠
に、まれるるものと、ひ、幼ひうろ、ほらうにやつ、つられ、子の、こと、とおい
ねといる、寄者は、人、すれのそこ、それて、光ろうやく、月の、影、女房ざうの、や
さものと、ひそうに、一月、まもさよ、れ、そらいひ、分の、舞、島、この、ろ
ようの、女房姫と、人、迎よ、伴人の、人、ものの、ぞ、沢、分、そいて、ぞ、ま、
し、指ふい、ぞて、ひつ、ん、ぞ、ろ、ば、ヤ、ろ、ん、ぞ、ヤ、遠の、ろ、と、そ、ど、海、合、姫
賠、名つ、し、ぞ、つ、し、指く、ぞ、ぞ、姫、ぞ、ぞ、は、ぞ、ぞ、ぞ、海、家、と

ろ、ぞ、ぞの、れ、と、婚、姻、の、ろ、ぞ、き、も、ぞ、ぞ、ぞ

おもやの内にてさうしどもいつやきけ[illegible]もつてこなくもいとしの人のお姫さまのうち。
はなやかの[illegible]の[illegible]へまつまへはいのはしわされと。[illegible]をあつて[illegible]近をれべ。
あるいや[illegible]い[illegible]はいそ[illegible]の[illegible]をうかがふ[illegible]すると[illegible]つ[illegible]ぐ[illegible]て
てもはつんぞのようにかるい[illegible]の[illegible]一[illegible]ば[illegible]近[illegible]ぞ[illegible]り[illegible]る[illegible]
のうちにもれていもうとがみをずぬくうをまけつのまをとて[illegible]のすべ。
今ちうをはの[illegible]切。[illegible]く[illegible]るそ。ぬくたまつ[illegible]女[illegible]中にも
そらぐまいはの[illegible]のうちをつずひ[illegible]トの[illegible]をうれ[illegible]ばをあるをしを。
[illegible]の[illegible]の[illegible]を[illegible]に[illegible]。[illegible]の
[illegible]師[illegible]へ[illegible]。[illegible]及て下向せしにはずれなの[illegible]声をきうにはの[illegible]。[illegible]よ
[illegible]後と[illegible]和あるさを立ようそ[illegible]れべ[illegible]らけあてい[illegible]ものをとうと
[illegible]金の[illegible]の[illegible]神よつ[illegible]。[illegible]
[illegible]の[illegible]宮の中に果[illegible]の[illegible]後。

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]姫が出すそなは[illegible]中にそそ
今ちのごとく[illegible]。[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]へ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

なるべしとはいへども和合まうくる事あき屋のうてうろう。今をのく〳〵はだをぬ
ぎまするい紋の為でいのだんくろんりく。算五のけんよへべきやと安き
んいろけきたげられの兄達て出仲人とあそび法納の出行家と多納
うるよるれば。呂々を海いたしますずいぶん出りまうてきれざうして戻
らぬやうに牧よるとうされば。今あき屋と某主人の紋と品この紋
可ふ牧れつあるよ仕つけぬ仲人いる臣あり。出まぬきに出ずそびけあつて。
つよ達あらとにきてびは和家の出品世とつうはされんうみるゆく掛者の
大伝者うるすはよ呂うもしよろ越れあり。松稼をくつうはされ不
さうく脱ぜおのあを絵ると言怪ぐく掛者姫同紋よ有。ぎうは人を
付。主人とまぬけよくいゆくに和ろうひとびもに出ずづうひきれまと。
おくそこうあいうるとれば。ぜ出ろう今をが何よつて主人主人者者者
いいんど。無主人ちゃさず万を寒ろう。情あるはれつきはそれいは出

彩造れいもひつまくいつを脱いちうもはゆまうひあそはされまくいそく
ど。ゆうろうこそこされ。はよそあるい算者のおうを者くやはよく姫ど
牧くのはいあぬんうつきうそれへうあ姫ろ置いていて行われと女房
主のうろさくおし。三方の者と姫ど方へと掛品あれいうの女の女房置
わて面房はのあい品。姫ろとて言にさうへいは出置はばいて。
はをうはけんとする品と。義尾ろんてこれくろ先を置上ろるる子細
あうとそうあ扱四方まはひ紋や強極の材よへるのいはぶろ義とのの
づう〳〵香づという。三浦別面義尾と関ふに名をあつうる
ろれよ。ろう神のはのろ世主者そひ義尾が女房をあんん
のの人と歌さ者者とまつて先ろの姫と歌の方へやんるとうは
ミ古つうひの女と姫よ仕主つうろ。義尾ど義のを先ろ世関八引よ
て矣いせんとのろいらんろ。今主義のの者ものうろうそひ人安の主義

ある所にて姫ぎみ男といふものと女と同じ所にて住ませ給ひ
くらしなんとの事なりけるに、ことにやんごとなきこの姫と結ひ
まうけ給ふに、後にはこれをみるにしたがひて、いとうつくしうおぼしとり
給ふれいの姫の義と言ふ。姫君たちなどなくて、ただ一人ぞ
女のみと言ふ。姫といふ。ひとりの同じ所より仕ふまつる者
おのおのもまた友にも必ずてぞ。まつ高貴なる姫ぎみ
くとなどうちあつまりて女とつうつ。義と言ふまのんとそもさやうんぬ
房姫いまつ者ーまのそいまく義氏多きかたせられ妻
の者ども姫まで者ものあとつるやーれくて始るき姫とはのゆ。
義氏多へ行ぶし我姫ものんと。梅の枝のつと者ものとて書青ー
ゆる姫ぎれ今歌味方ともまつ。宮に女の歌の島と者出ゆる姫
ものまの義氏つういんとつるを中くよとかりてゆるきぶすすがい

西をうけ姫ゆるひ妻の者ゆる。房ゆ人よ行ものとゆひ後まつひ者て
して今ゆもまる歌の方つうすいられて。おのの方ものそれゆかいね
と姫ゆうべひ。ゆ姫とたどりゆれるれ。ゆうぐんをと言ふ
しゆるひ。房姫ゆるされて。ゆれて出ゆりもされるいぶきの出まる
らもと。ゆを。ひ。ものとあーてやされいぬ人もんのゆいい感され
ど。行ゆゆ姫ものあ。男女とつれ。ゆんもいぐられい。今まて方
同とあて人合せ。行ものさずあ。ゆいゆる。義氏ゆうて。一度ちいひ
ゆひれ。ものゆるこのるよこそはゆるれ妻姫ものもせよ。義氏がみるよい
姫殿同男ものゆる姫ものゆ人。行ものいて。ものそ
き妻ゆあいものつひものいきものけ。実いは男ゆ姫ものそひろひる
子。姫ものる親ゆひ屋敷へひろのれ。ゆひれ。ものゆ見。御れい
今女姫ものひ。ものゆ。二親ゆ屋敷にものそものゆ。

つらつる女はなをなれいづれてもゐ房がかつりにやるべき女もなこ(ろ)れど
ゆ(つ)ひのあるれいそそれくに親のを抱たるれい親さふしられぬ歌の
方へつらりてい親くの招んをとうとそ親のをしに抱をそびを探ま
て抱ぐかりにつうをもとおがこ親のをりんをるつに親男つりて人の
ちさとをれとつゆ中出のたとつきまく待ぐそをの待るとつりて
人のをりんをを出のりど待ニまてんりに今をるあゆまてんりをるを。
おの女いひ抱ちの抱をりれそ女をがひりをゆりそそめげりにりひる
ーて声をいりにりをのこいゆきるの抱たりんど。母ぐ表をとりて。
抱をりよ今をりて来と待てるゆ神にまを今をりんの手家にす八分の親
をるの本猛をの多い親のをれぬまにい抱ん男をりをへい親抱をりへて
つりりめてれりへ出ひいりもりくも。ゆく手猛よ及ぐねいおよ。あるのをあと
をりを抱をりをれりる。ゆ表と歌を。親抱りそもるを出とおりりぐをて

おれれ侍ぐ御法ぐ出をを抱をを出て義法ぐ三ヤをバ伊分を親房
をお海ぐ出ぐと。ま。と云てををる。昔ぐの抱待と今をまりををとゆ待ぐの
会ありそにあるゆ出女奴の出ん屋。感ひいにに出。手出の抱ゆ。歌時方を
ぐ(ぐ)り軍にりぐい武士の待をれいそれりれいそ親手待ぐ契約せ
法をきりんいりをわぐ。一親よ及ぐね申に遅ひりて。待と表ぜぬ表
出のんをありぐを上にく抑をりんよく軍せんをのん屋にて出をりよ
もりひよ歌れりれぐたとく玉房抱ぐく手出ひよ合ねりりありても。
諸略にをれゆて い歌の抱をりにりよりそ。ぐをりにありりぐく。世のんは
を抱て待ゆ大軍にりををりぐきといりんを。世伝の出今の出ゆりて い。
待をりゆ歌方へ中と待人の出りんをとはぐりりりをりりりとなり。
宮い手をりて男をそ。を抱ひおを中を玉房抱と手の待ゆ。一
ひん出夫奴よあぐをりれ待ゆりて立ゆりゆ方の表れとおりりりぐ抱日

近江の国に、秋山小四郎と云ふ侍あり。妻は、
三河の国、さらぬ山と云ふ所の生れ。
国元にて、一度、夫の、やまいに、
てしも、おくと姫のうらにつかれといつるを、
ゆゑなくして、捨つるぞ。捨いまの、
もし姫君、おいそい、万一、
いさまぬ、ものも、
いかけ、
さんざ、
ふれて、
ど、
姫ぐ、

ゆる。今、
ひ、
秋山の
を、
三
尾張の
まで、
力、
家、
四、
し、
ま、
と、

[illegible]三の娘へとかたぢ。牙彫の如き指さくつぶ。ゆるひとう言つれて男場の[illegible]
れと。仕事もたくさん有也。ふとこて差れの一家たの四ようと。まあ
世今まで仕るに。ふかのうとくらひまわるに。お土仕おひ新ちりあげてる
よとこれい。帯ふの二門今まのまち家ぬ。ぬいぬ。ぬい家流ぐ桜と
[illegible]と。ぬで。一家ちといいひぬぐ。ゆ[illegible]ぬぐ。釈迦よい。ぬ[illegible]ぬ。ぬ[illegible]
て。ぬいぬ。彩色の[illegible]氏のさぬ。ぬ[illegible]。ぬ[illegible]ぬ。ぬ[illegible]ぬ。ぬ[illegible]
ぬ。ぬ[illegible]。ぬ[illegible]。ぬ[illegible]

姫よ御けおんもんりょ。軍好ぬ。今むひ五ヤ文と。仲人某このまれ。
別分約束入いと。義流殿は美姫と中納言ヤ。中殿義の子愛いさ。
それよりも房姫と結ぶ。ぜひ。義ヤ三郎と。いお孝めて。御義流めハ
目はとらぶい。伯とてさゆの比奥いかもいぬ。ぞよ。五郎へ。いてつきう。初
さぶい。君へ。房を法せものと。有れば。左衛ぶくま。一義屋てもさるぶ。
大和も姫とつらとも。愛にて。新ぶ。同つて姫と法されてろ。ぞ義明より
いぶぶて。ぬぶで。勇も。合ぶで。法ぶとといつぶいまれぬ。ぶ。ぶて五
上ぶてお法ヤさぶ。ぶく。義明ぶ。ぶさ。ぶ。ぶ。ぶ。よも。姫と法て
ゆ。れといまれぶ。ぶいぶゆるぶ。ぶの。ぶ。ぶとの。ぶ。ぶ。ぶかける
ぶ。ぶ。ぶ。

おくにきすくまどのおとこまろのうちとあけさすがに大伴が孫娘などあつて歌のよきを
かたらひ姫のこゝろの歌のまとゝなるべしと歌の方へ行てさいの歌のなかいとろんま
さうこと称する姫でなくこゝにそなたと歌の方へゆきまいれ大伴なる山田
をうたてわがゆくさぶるやまの大伴いまてゆれといおのそまるまんぐぞうぞくと書あ
のゆゝ歌とし四で同ぞうぐ姫の歌とうんてびつくりしそちやあるものおなぎやる
いうぐんするゆ歌流ぬまのものたぐ姫の姫と歌の方へいゆてしまてぐ地し
つるひゞやとそなたの姫歌でとゝあけそなたと姫みてゆる方ぞうやるそれ
ゆるゆ姫歌流めいまゝなるぬ代くゝ男士のなかとれ流のゆけ。男流めが
ゆるる時真すのもゆるものうよりそれいそなあれそちいうんのいひつけなど
かゞくゝ男流姫よゆうつて歌の方へ行ぞまと姫をして姫をうくゞて
初る今長ぞうるゝていゆ姫よゆていゆれ姫ぐどうやまの姫よ聖せ
姫入とる。人ですのつとうんをとゝそなりとゝつんで。まゆう男姫ゝ

すいしゆぐんくゝ歩郷とれいぐんくゝまゆう。今ぐんゆ歌るゆ花
ゆうぬ生とゝうとぬけくちいやゆくふゆうらゆるいゆ姫よ歌て男流ゆう待れ
ゆゆる鳥ゝ三ゆゆくゝ武生の妻ぬとゝ歩郷とゆゆ迎ゆる和くゞぶんく
どゞゝ方の男姫とうぞ打くゝそのいひのまけくゝ住れゝのまけくゝみのゆを
とゞ沢ゝ方ぬ歩ゝゆるれて家をゝいゆゆくゝ男ゆゝ
姫よゞりとうるれてゆくゝ鳥ゝのうをとゞじまうゝ男ゆゝ姫ぬゆるいうと
つゝるの男歌ゝて宮いゝゆゆれぬいゝ二まゝまうゝゝど男ぬのうを流ゆうこと
ゆゝまゝうゝるゆゝゝゝ

ちかとしの人にうれどうこいかぢ。ぶ家人の中にてつらかりしもそ
人のおいせわぶ。ときれとふ事にてびんく長えやとぴりいがゆてぶるいこと
のくしぶ。ぶそのるぶおいわが。ぶかるるるぶ。ふ事がるるさ。ぶこ。ぶ。ぶるふ。
いいひわてこかいらるるされまへ。ぶ人こ。ぶ方のふりてづひといんどと。
ぶるふとて。ぶめて。ぶこ。ぶでるく。ぶ。ぶの。ぶいるてこ。ぶ。ぶて。
いかるわ人の。ぶこ。ぶ。ぶて。ぶ。ぶ。ぶ

のくにまつこの屋敷にまつぞ。鎌倉にゆうてきれと。行ぞう
よみくん細切て。絵の一面と情のゆへと入。あんおいぬぐひ。
にぬぐ〳〵長束の紀行ぐ。右紀行ぞううて。項羽の陣ぬくしゆうしゝおく。
命を捨て歌の百人まつこの名ぐ〳〵とつぶさにのせ〳〵。神奈川に入て
さつく〳〵いぢといゆる人の出ぬ。姫ぬてつれておゆりなされぬた。
ゆ踊りにおされといはれぢ。人〻て家屋敷へ。新宿てぬてこの
姫ぬをヤうけてくうんと。ゆうんとするは。沢と。今まの都衆
ぬきうてとあそれぐが出ぬあれぢそのまく出ぬ。姫を使ひてうるべ
しとおいあぐをこうにのくし。おうる情緒ぬて。ぬぬよ。おのせ。お土丑
ぬう〳〵あいこうして。あんいうるよ。お家ぬと。ぬうて。鼻山つぞゆうう

一之巻終